

—原著—

長野赤十字病院口腔外科における紹介患者の臨床統計的観察

鈴木理絵, 横林敏夫, 清水武, 五島秀樹, 田尻朗子

長野赤十字病院口腔外科
(主任: 横林敏夫 部長)

Clinico-statistical Observation of Patients Referred at Department of Oral and
Maxillofacial Surgery, Nagano Red Cross Hospital

Rie Suzuki, Toshio Yokobayashi, Takeshi Shimizu, Hideki Gotou, Akiko Tajiri

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nagano Red Cross Hospital
(Chief: FDr. Toshio Yokobayashi)

平成13年5月17日受付 5月26日受理

Key words: Clinico-statistical Observation (臨床統計的観察), Referred patients (紹介患者), Oral and
Maxillofacial Surgery (口腔外科)

Abstract: Patients referred to the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Nagano Red Cross Hospital
between April 1998 and March 1999 were studied.

The results were as follows:

1. The subjects consisted of 1,925 patients who accounted for 48.3% of 3,985 new patients who visited us during the above period.
2. Eight hundred and forty nine patients were males and 1,076 were females. The third decade showed the highest incidence (418 patients, 21.7%), which was followed by the fourth and seventh decades.
3. The peak incidence was recorded in March (178 patients, 9.2%), whereas December was the month of the lowest incidence of referrals (135 patients, 7%). The monthly and daily average numbers of patients were 160 and of 7, respectively.
4. There were 1,379 patients (71.6%), who were referred to us from other clinics (outside patients), and the remaining 546 patients (28.4%) were referred to us from the other departments of our hospital with the highest referrals from the department of internal medicine. Dental clinics were the source of referrals in the vast majority of outside patients.
5. Geographically, 1,106 patients (80.2%) were from clinics in Nagano city, whereas there were 54, 54, 48 and 41 patients from Kamiminoti country, Iiyama city, Hanishina country and Suzaka city, respectively.
6. In terms of disease classification, 791 patients visited us because of inflammation, which was followed by 281 craniofacial deformities, 128 cystic lesions, 104 temporomandibular joint disorders, 72 traumatic injuries, 37 tumors, 35 tumor-like lesions, 28 neurological diseases, 24 salivary gland diseases and 12 blood diseases. The remaining 413 patients had the other diseases.

抄録: 1998年4月から1999年3月までの1年間に、長野赤十字病院口腔外科を受診した新患者のうち文書により紹介された患者について臨床統計的観察を行い以下の結果を得た。

1. 対象期間中の新患者総数は3,985名で、そのうち紹介患者は1,925名、紹介率48.3%であった。
2. 性別は、男性849名(44.1%)、女性1,076名(55.9%)、年齢別は、20歳代が418名(21.7%)と最も多く、次いで30歳代、60歳代の順であった。
3. 月別では、3月が178名(9.2%)と最も多く、12月が最も少なく135名(7.0%)、月平均紹介患者数160名、1日平均

7名であった。

4. 紹介元医療機関は、院外紹介が1,379名(71.6%)、院内紹介が546名(28.4%)で、院外紹介のうち歯科開業医からのものが1,223名で、ほとんどを占めていた。他科からの紹介は院内、院外ともに内科が最も多かった。

5. 院外紹介元医療機関の地域分布は、長野市からの紹介が1,106名と圧倒的に多く、院外紹介の80.2%を占め、次いで上水内郡、飯山市各54名、埴科郡48名、須坂市41名の順であった。

6. 疾患別では、炎症性疾患791例、発育異常・奇形変形281例、嚢胞性疾患128例、顎関節疾患104例、外傷72例、腫瘍性疾患37例、腫瘍類似疾患35例、神経性疾患28例、唾液腺疾患24例、血液疾患12例、その他413例であった。

結 言

長野赤十字病院は、814床、25診療科を有する長野県北信地域(診療圏人口約60万人)の中核医療施設で、口腔外科は、1983年10月、新病院への移転を機会に、当地域唯一の「口腔外科」専門医療機関として開設された。

最近、地域中核病院と歯科診療所との「病診連携」が重要視されており、多くの病院において初診患者の紹介率の向上が大きな課題となっているが、「歯科口腔外科」においてはあまり重要視されていない面があった。このため大学病院および一般病院の「歯科口腔外科」における紹介患者の実態についての統計的報告はきわめて少なく、現実的に病院「歯科口腔外科」が地域医療において、機能分担や連携体制がどの程度行われているのか不明な点が多い。そこで、今後も歯科口腔外科医療を遂行するにあたり、紹介患者の実態を把握することは意義あることと考え、今回、私達は1998年度1年間の紹介患者について臨床統計的観察を行ったので、その概要を報告する。

対象および方法

対象は、1998年4月から1999年3月までの1年間に、長野赤十字病院口腔外科を受診した新患患者3,985名のうち文書により紹介された患者1,925名(紹介率48.3%)である。これらについて、性、年齢、月別推移、紹介医療機関、紹介元医療機関の地域、疾患内容等について臨床統計的観察を行った。

結 果

1. 性別および年齢別紹介患者数

性別では、男性849名(44.1%)、女性1,076名(55.9%)で、その比は約1:1.3と女性が多く、全ての年代で女性の方が上回っていたが、紹介率で見ると、男性50.4%、女性46.8%と、男性の方がやや高い率を示していた。

年齢別では、生後数日から97歳と広く分布し、年代別で見ると、20歳代が418名、全紹介患者の21.7%と最も多く、次いで30歳代273名(14.2%)、60歳代253名

(13.1%)の順であった。紹介率で見ると、80歳以上が65.5%と最も高く、次いで70歳代55.8%、60歳代52.0%と、60歳代以上は高齢になるほど紹介率が高くなる傾向にあった(図1)。

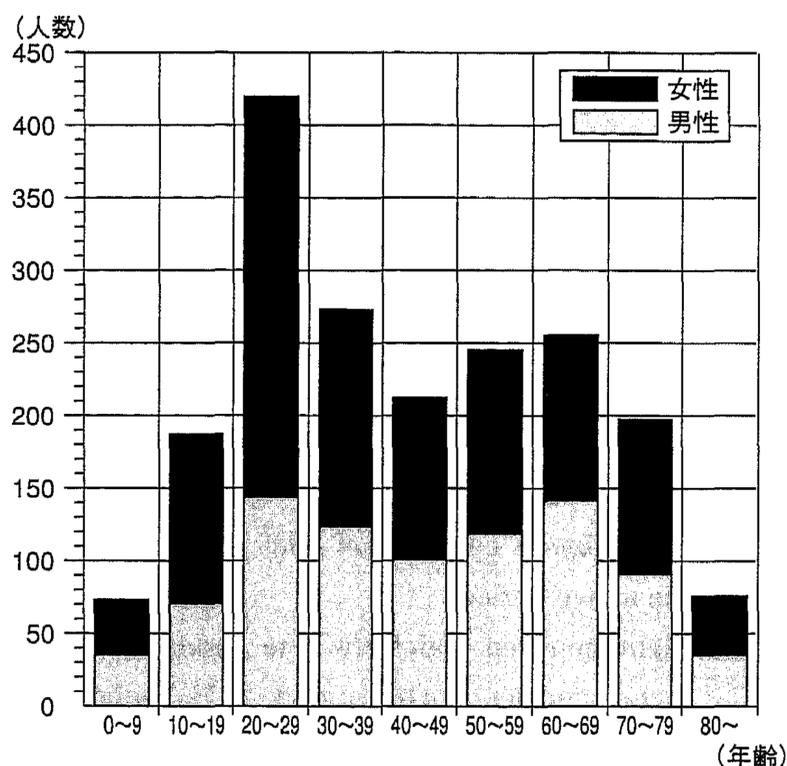


図1 性別および年齢別紹介患者数

2. 月別紹介患者数

月別紹介患者数は、3月が178名(9.2%)と最も多く、次いで10月174名(9.0%)、6月170名(8.8%)の順となっており、最も少ない月は、12月135名(7.0%)であった。月平均紹介患者数160名、1日平均7名であった。紹介率で見ると、1月が51.8%と最も高く、次いで5月50.8%、3月50.7%であり、6月が43.7%と最も低率であった(図2)。

3. 紹介元医療機関別患者数

紹介元医療機関については、院外紹介患者1,379名中一般歯科開業医からの紹介が1,114名、矯正歯科開業医からが109名、計1,223名で、歯科開業医からの紹介患者は院外紹介患者の88.7%を占めていた。院外の歯科以外の医療機関からの紹介は122名で、院外紹介患者全体の8.8%であり、診療科別では内科が最も多く、次いで外

科の順で合わせて約60%を占めていた。

院内の紹介患者は、歯科口腔ドックを除くと外来からが141名、入院中が323名、計464名であった。うち内科が外来、入院合わせて211名と最も多く、院内紹介患者の45.4%を占めていた(表1)。

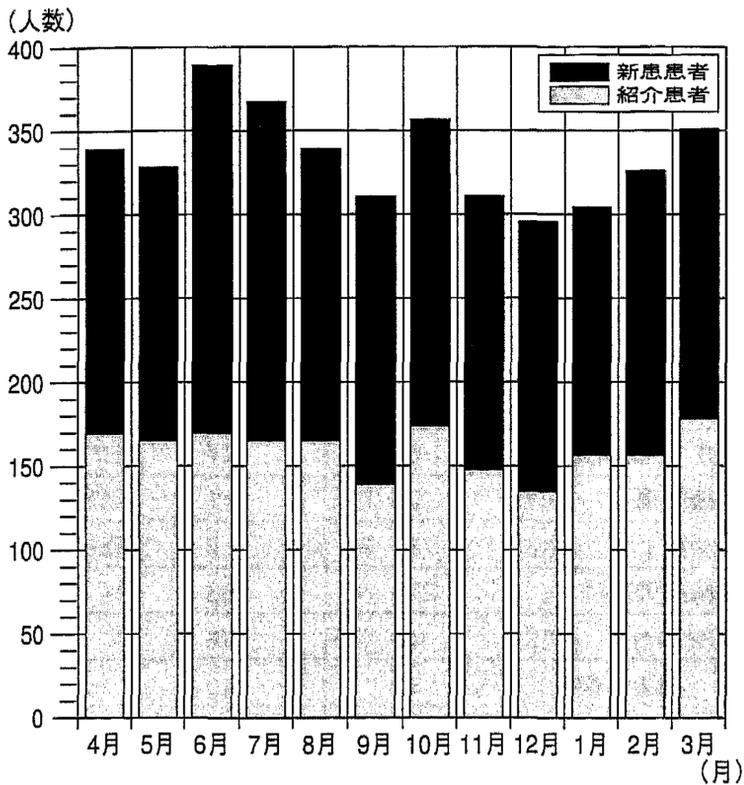


図2 月別紹介患者数

表1 紹介元医療機関別患者数

診療科	院内			院外		
	外来	入院	その他	病院	医院	その他
内科	50	161	0	15	33	0
外科	19	34	0	14	11	0
脳外科	4	27	0	0	1	0
耳鼻科	30	6	0	11	7	0
整形外科	7	19	0	5	8	0
精神科	8	33	0	1	0	0
その他	23	43	0	6	10	0
歯科口腔ドック	0	0	82	0	0	0
健康センター	0	0	0	0	0	17
歯科	0	0	0	14	1114	0
口腔外科	0	0	0	3	0	0
矯正歯科	0	0	0	0	109	0
計	141	323	82	69	1293	17

4. 院外紹介元医療機関の地域別数

全紹介患者1,925名のうち、院外からの紹介は1,379名で、院外紹介元医療機関の地域分布をみると、地元長野市からの紹介が1,106名と圧倒的に多く、院外紹介の80.2%を占め、次いで長野市に隣接する上水内郡、飯山市が各54名、次いで埴科郡48名、須坂市41名、更埴市16名の順であった。

県外の紹介医療機関は、大学病院口腔外科から2名のみで、長野市への転居によるものであった(図3)。

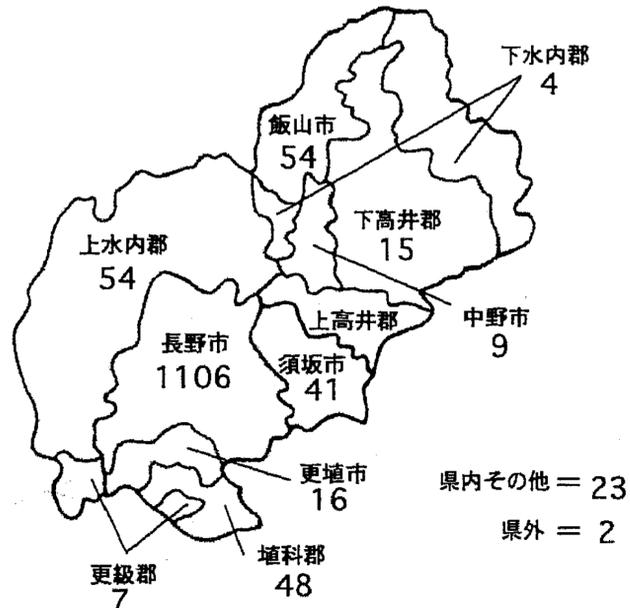


図3 院外紹介元医療機関の地域別数

5. 疾患別紹介患者数

紹介患者を表のように疾患別に分類すると、多い順から炎症性疾患791例(41.1%)、発育異常・奇形変形281例(14.6%)、嚢胞性疾患128例(6.6%)、顎関節疾患104例(5.4%)、外傷72例(3.7%)、腫瘍性疾患37例(1.9%)、腫瘍類似疾患35例(1.8%)、神経性疾患28例(1.5%)、唾液腺疾患24例(1.2%)、血液疾患12例(0.6%)、その他413例(21.5%)であった。

紹介率でみると、血液疾患75.0%、発育異常・奇形変形71.9%、腫瘍性疾患71.2%が高率を示し、一方、顎関節疾患19.5%、外傷30.6%と低率であった(表2)。

表2 疾患別紹介患者数

疾患名	新患者数	紹介患者数	紹介率(%)
発育異常・奇形変形	391	281	71.9
外傷	235	72	30.6
炎症性疾患	1528	791	51.8
嚢胞性疾患	219	128	58.4
腫瘍性疾患	52	37	71.2
腫瘍性類似疾患	86	35	40.7
顎関節疾患	532	104	19.5
唾液腺疾患	53	24	45.3
神経性疾患	65	28	43.1
血液疾患	16	12	75.0
その他	808	413	51.1
計	3985	1925	48.3

6. 各種疾患別観察

1) 発育異常・奇形変形

紹介患者数281例、紹介率71.9%であり、内訳は、歯の埋伏が230例と最も多く、紹介患者全体の81.9%を占

めており、うち智歯の埋伏が185例とほとんどであった。次いで顎の変形24例、小帯の異常12例、歯の位置異常・方向異常6例、歯の構造異常4例、歯の萌出時期異常1例、その他3例であった(表3)。

表3 発育異常・奇形変形

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
萌出時期の異常	8	1	12.5
歯の構造異常	4	4	100.0
歯の位置異常・方向異常	22	6	27.3
歯の埋伏	283	231	81.6
・智歯	232	185	79.7
・正規歯	31	27	87.1
・過剰歯	20	19	95.0
小帯の異常	25	12	48.0
顎の変形	46	24	52.2
その他	3	3	100.0
計	391	281	71.9

2) 外傷

紹介患者数72例、紹介率30.6%であり、内訳は、歯の損傷23例、顎骨骨折21例、軟組織の損傷17例、歯および軟組織の複合損傷2例、その他9例であった。顎骨骨折のうち下顎骨体骨折が16例とほとんどで、紹介率は60.0%と高く、一方、軟組織の損傷19.3%、歯および軟組織の複合損傷5.4%と紹介率はかなり低率であった(表4)。

表4 外傷

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
歯の損傷	44	23	52.3
顎骨骨折	35	21	60.0
・骨体	25	21	84.0
・歯槽骨	10	0	0.0
軟組織の損傷	88	17	19.3
歯+軟組織の損傷	37	2	5.4
打撲等その他	31	9	29.0
計	235	72	30.6

3) 炎症性疾患

紹介患者数791例、紹介率51.7%であり、内訳は、歯および歯周組織の炎症が576例と最も多く、紹介患者全体の72.8%を占めており、このうち智歯周囲炎が428例とほとんどで、炎症性疾患全体でも54.1%と半数以上を占めていた。次いで、口腔粘膜の炎症83例、顎骨の炎症54例、歯性上顎洞炎47例、軟組織膿瘍11例、リンパ節炎7例の順であった。

口腔粘膜の炎症の内訳は、口内炎28例、褥瘡性潰瘍13例、舌炎12例、扁平苔癬10例、白板症およびカンジダ症

が各6例、口唇炎4例、水疱性疾患3例となっており、紹介率は低く29.7%であった(表5)。

表5 炎症性疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
歯、歯周組織の炎症	1026	576	65.9
・智歯周囲炎	658	428	65.0
・歯周炎	311	142	45.7
・歯髄炎	33	11	33.3
・歯肉炎	22	9	40.9
顎骨の炎症	124	54	43.5
・顎骨炎	89	40	44.9
・顎骨髄炎	13	11	84.6
・歯槽骨炎	17	3	17.6
・外歯瘻	5	0	0.0
(歯性) 上顎洞炎	65	47	72.3
軟組織膿瘍	26	11	42.3
リンパ節炎	11	7	63.6
口腔粘膜の炎症	279	83	29.7
・口内炎	109	28	25.7
・褥瘡性潰瘍	28	13	46.2
・舌炎	76	12	15.8
・扁平苔癬	21	10	47.6
・カンジダ症	8	6	75.0
・白板症	8	6	75.0
・口唇炎	23	4	17.4
・水疱性疾患	5	3	60.0
計	1528	791	51.7

4) 嚢胞性疾患

紹介患者数128例、紹介率58.4%であり、そのうち顎骨嚢胞105例で紹介患者の82.0%を占めており、内訳は、多い順に歯根嚢胞51例、含歯性嚢胞19例、術後性上顎嚢胞14例、歯原性角化嚢胞5例、上顎洞粘液嚢胞4例、切歯管嚢胞、単純性骨嚢胞、静止性骨空洞が各3例、非角化性原始性嚢胞2例、その他1例であった。顎骨嚢胞のうち歯原性のものは、76.2%を占めていた。軟組織嚢胞は23例で、そのうち粘液嚢胞20例、ガマ腫3例で、紹介率は低く35.4%であった(表6)。

5) 腫瘍性疾患

紹介患者数37例、紹介率71.2%であり、そのうち良性腫瘍27例で、顎骨良性腫瘍10例、紹介率90.9%と高く、内訳は、歯牙腫5例、エナメル上皮腫およびセメント質腫各2例、黒色性神経外胚葉性腫瘍1例であり、軟組織良性腫瘍は17例あり、内訳は、線維腫10例、血管腫2例、脂肪腫、乳頭腫、リンパ管腫、多形性腺腫および血管筋腫が各1例であった(表7)。

悪性腫瘍は10例で、紹介率76.9%、内訳は舌癌5例、

上顎洞癌 2 例，頬粘膜癌，口底癌および歯肉癌が各 1 例であった（表8）。

表 6 嚢胞性疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
顎骨嚢胞	154	105	68.2
・歯根嚢胞	70	51	72.9
・含歯性嚢胞	25	19	76.0
・歯原性角化嚢胞	6	5	83.3
・非角化性原始性嚢胞	5	2	40.0
・切歯管嚢胞	3	3	100.0
・術後性上顎嚢胞	20	14	70.0
・単純性骨嚢胞	3	3	100.0
・静止性骨空洞	4	3	75.0
・上顎洞粘液嚢胞	6	4	66.7
・その他	11	1	9.1
軟組織嚢胞	65	23	35.4
・粘液嚢胞	59	20	33.9
・ガマ腫	6	3	50.0
計	219	128	58.4

表 7 良性腫瘍疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
顎骨良性腫瘍	11	10	90.9
・歯牙腫	6	5	83.3
・エナメル上皮腫	2	2	100.0
・セメント質腫	2	2	100.0
・黒色性神経外胚葉性腫瘍	1	1	100.0
軟組織良性腫瘍	28	17	60.7
・線維腫	14	10	71.4
・血管腫	8	2	25.0
・脂肪腫	2	1	50.0
・乳頭腫	1	1	100.0
・リンパ管腫	1	1	100.0
・多形性腺腫	1	1	100.0
・血管筋腫	1	1	100.0
計	39	27	69.2

表 8 悪性腫瘍疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
舌癌	6	5	83.3
上顎洞癌	2	2	100.0
頬粘膜癌	1	1	100.0
口底癌	1	1	100.0
歯肉癌	1	1	100.0
悪性黒色腫	1	0	0.0
顎下腺癌	1	0	0.0
計	13	10	76.9

6) 腫瘍類似疾患

紹介患者数35例，紹介率40.7%であり，内訳は多い順に，エプーリス18例，口蓋隆起および義歯性線維腫 5 例，線維性増殖 4 例，下顎隆起 3 例であった（表9）。

表 9 腫瘍類似疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
エプーリス	19	18	94.7
口蓋隆起	9	5	55.6
義歯性線維腫	6	5	83.3
線維性増殖	24	4	16.7
下顎隆起	19	3	15.8
歯肉肥大	6	0	0.0
pyogenic granuloma	3	0	0.0
計	86	35	40.7

7) 顎関節疾患

紹介患者数104例，紹介率19.5%であり，顎関節症が94例と紹介患者の90.4%を占めていたが，紹介率は18.3%と低かった。以下顎関節脱臼 8 例，顎関節強直症 2 例であった（表10）。

表10 顎関節疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
顎関節症	514	94	18.3
顎関節脱臼	16	8	50.0
顎関節強直症	2	2	100.0
計	532	104	19.5

8) 唾液腺疾患

紹介患者数24例，紹介率45.3%であり，内訳は，シェーグレン症候群を含む口腔乾燥症10例，唾石症および唾液腺炎各 7 例であった（表11）。

表11 唾液腺疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
口腔乾燥症	22	10	45.5
唾石症	18	7	38.9
唾液腺炎	13	7	53.8
計	53	24	45.3

9) 神経性疾患

紹介患者数28例，紹介率43.1%であり，内訳は多い順に，三叉神経痛17例，顔面神経麻痺 5 例，舌痛症 4 例，非定型顔面痛 2 例であった（表12）。

10) 血液疾患

紹介患者数12例，紹介率75.0%であり，ほとんどが院

内内科からの紹介であった。内訳は多い順に、HIV感染症5例、血小板減少性紫斑病4例、白血病2例、再生不良性貧血1例であった(表13)。

11) その他の疾患

紹介患者数413例、紹介率51.1%で、多い順に一般歯科疾患141例、C₄齲蝕114例、異常なし67例、歯牙欠損(インプラント)33例、口腔異和感および歯肉出血が各5例、診断不明、顎堤吸収症および色素沈着が各4例、術後出血3例、抜歯後治癒不全および術後(頬粘膜腫瘍術後、抜歯後)2例、以下、皮下気腫、局麻アレルギー、異物、口臭症などがあった(表14)。

表12 神経性疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
神経痛	31	19	61.3
・三叉神経痛	29	17	58.6
・非定型顔面痛	2	2	100.0
顔面神経麻痺	9	5	55.6
顔面神経痙攣	1	0	0.0
舌痛症	24	4	16.7
計	65	28	43.1

表13 血液疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
HIV感染症	6	5	83.3
血小板減少性紫斑病	5	4	80.0
白血病	2	2	100.0
再生不良性貧血	2	1	50.0
血友病	1	0	0.0
計	16	12	75.0

表14 その他の疾患

疾患名	新患総数	紹介患者数	紹介率(%)
一般歯科疾患	263	141	53.6
歯牙齲蝕(C ₄)	154	114	74.0
異常なし	132	67	50.8
歯牙欠損(インプラント)	38	33	86.8
口腔異和感	75	5	6.7
歯肉出血	10	5	50.0
診断不明	16	4	25.0
顎堤吸収症	4	4	100.0
色素沈着	5	4	80.0
術後出血	8	3	37.5
抜歯後治癒不全	7	2	28.6
その他	96	31	32.3
計	808	413	51.1

考 察

長野赤十字病院口腔外科は開設の際、地元歯科医師会との役割分担を明確にし、いわゆる一般歯科治療は重度心身障害者のみとし、職員はもとより入院患者についても原則行わないこととし、院内標榜は「口腔外科」を一貫してきたため紹介患者が多いことが当科の特徴の一つである。

1998年度1年間の紹介患者は1,925名で、同期間の新患患者3,985名の48.3%を占め、うち院外からの紹介患者は1,379名で、新患患者の34.6%であった。

一般病院歯科口腔外科における1980~1990年代の他医療機関からの紹介率の報告をみると^{1~9)}、恵佑会札幌病院⁷⁾の42.4%、春日井市民病院⁹⁾の40.3%とかなり高率の施設から、北斗病院⁸⁾の14.3%、市立島田市民病院^{1,2)}の10.5%など施設により差があるが、いずれも年間の院外の紹介患者数は210名から770名程度であり、当科における年間1,379名は、非常に多いものと推察される。

性別および年齢別紹介患者数は、性別では女性の方が男性より多く、これは新患患者の男女比とほぼ同じであるため、その差はないものと考えられる。年齢別では20~30歳代と、60歳代の2つにピークがあり、前者は智歯抜歯症例が多い結果であり、後者は基礎疾患有病者の一般歯科治療が、60歳以降に多いためである。

紹介患者を月別でみると、3月が最も多かったが、これは、春期休暇中で学生の受診が増えたためと推測され、反対に12月が最も少ないのは、診療日数が少ないことと年の瀬で忙しいため受診者が減少するためと考えられる。

紹介元医療機関については、院外紹介患者1,379名中、歯科開業医からの紹介が1,223名で、院外紹介患者の88.7%を占め、歯科開業医からの紹介が最も重要な来院経路であり、当科が地域歯科医療機関と密接な連携を持ちながら役割分担がうまく行われていることが推察される。

院外の歯科以外の医療機関からの紹介は122名で、院外紹介患者全体の8.8%であり、診療科別では内科が最も多く、次いで外科の順であった。当科における1992年の報告¹⁰⁾では、院外の他医療機関からの紹介患者は225名で今回かなり減少していた。1989年から1992年の4年間におけるそれは平均227名であり、2000年度は147名であることより明らかに減少しているようである。この理由は、北信地域に当科以外に「歯科口腔外科」を標榜する施設が3カ所出来たこと、顎関節症患者が、他医療機関を受診せず直接来院するようになったこと等が理由として考えられる。

院内の紹介患者は、歯科口腔ドックを除くと外来、入院を合わせて464名であった。当院は25診療科を有しており、ほとんど全ての科からの紹介があったが、内科が211名と最も多く、院内紹介患者の45.4%を占めていた。これは内科系の患者の絶対数が多いことと相関していること以外に、原則的に当科では一般歯科治療を行わないことになっているが、内科系患者は入院期間が比較的長く、内科疾患の治療と同時に義歯不適合症例などで当科を紹介される患者が多いこと、口腔粘膜疾患や炎症性疾患などでもまず内科を受診し、直後に当科を紹介される例などがあること、骨髄移植患者を中心に血液疾患患者の口腔管理を当科にて行うようになったこと等が、内科からの紹介患者が多い理由として挙げられる。

当院では、1995年6月より健診センターの一泊二日の人間ドック受診者を対象に、希望者に対してオプションで歯科口腔ドックを開始した。診査項目は、1. 口腔癌・前癌病変等の粘膜疾患の診査 2. 歯牙齲蝕の診査 3. 歯周疾患の診査 4. 顎関節の診査 5. 咬合診査 6. パノラマX線診査の6項目を行い、診査の結果当科にて精査、処置が必要な場合は、翌日当科受診をさせている。この対象者は82名であり、同期間の歯科口腔ドック受診者592名中13.9%で、院内紹介患者の中でもドックからの紹介が大きなウエイトを占めていた。

院外紹介元医療機関を地域別にみると、当院のある長野市が1,106名と全体の80.2%を占めているが、飯山市54名、埴科郡48名と長野市に隣接する市以外からの紹介も多かった。北信地域に当科以外に「歯科口腔外科」を標榜する施設が設立されたにもかかわらず、このように遠隔地からの紹介が多い理由は、1983年当科開設以来の実績が評価され、引き続き遠方にもかかわらず紹介されているためと思われる。北信医療圏以外の県内からも23名の紹介があり、長野市近郊はもとよりかなり広域に口腔外科施設として認められていることがうかがわれる。

疾患別紹介患者数では、埋伏智歯185例および智歯周囲炎428例、計613例ときわめて高い数であり、紹介患者全体の31.8%を占めていた。紹介率でも各79.7%、65%と高率であった。

顎変形症については、手術が多いことが当科の特徴であるが、新患患者46例中24例、52.2%が紹介で、ほとんどが矯正歯科開業医からのものであり、連携がうまくとれているといえる結果であった。

外傷は、235例中72例が紹介で、紹介率は30.6%と比較的低率であった。これは当科が救急指定病院に指定されていることより、直接受診するケースが多いためと考えられる。

腫瘍性疾患は、52例中37例が紹介で、紹介率71.2%とかなり高率であった。悪性腫瘍についてみると1994年1月から1998年12月までの4年間に当科を受診した悪性腫

瘍患者は109例で、年平均22例であったが、1998年度は13例と例年よりかなり少なかったが、10例が紹介患者であった。10例の内訳は、歯科開業医4例、耳鼻咽喉科3例、外科2例、内科1例と歯科開業医ばかりでなく他科からも口腔悪性腫瘍の治療機関として評価されている結果といえる。

顎関節症についても514例中紹介は94例で紹介率18.3%ときわめて低率であった。顎関節症は以前、整形外科、耳鼻科等の診療科をまず受診し紹介されるケースが多かったが、現在では顎関節症が口腔外科疾患である認識が一般的に普及し、直接当科を受診するようになったためと考えられる。

一般歯科疾患については、当科においては重症心身症患者以外、職員はもとより入院患者についても診療しないことにより非常に少ないのが特徴で、今回は263例、全新患患者のわずか6.6%のみであり、紹介は141例で紹介率53.6%でほとんどが院内からの紹介であった。

当院では、病診連携を踏まえ1999年4月より病診連携室(2000年4月より病診連携課に名称変更)を設置し、事務職員も2名配置し、病院全体としても紹介率の向上をめざしてきた。当院医師、地元医師会および地元住民に対する啓蒙、紹介状を持たない初診患者から頂く「特定療養費」の値上げ、ファックスによる紹介患者の予約受付、逆紹介の推進などにより2000年10月には3ヶ月の平均紹介率が30%を越え、当科においても、紹介患者加算が算定できる患者数は2000年1月より12月までの最近1年間で1,543名(うち21名は救急車により搬入された患者)と、今回の数より大幅に増加している。

今回の結果より、当科が口腔外科専門医療機関として果たすべき役割が大きく、今後も益々大きくなっていくものと思われる。今後さらに地域医療機関と病診連携を深め、口腔外科医療の向上に努める考えである。

結 語

1998年4月から1999年3月までの1年間に、長野赤十字病院口腔外科を受診した新患患者のうち、紹介状のある患者について、性、年齢、月別推移、紹介元医療機関、院外紹介元医療機関の地域別数、疾患内容について臨床統計的観察を行った。その結果、当科開設当時から現在まで高い紹介率を維持しており、紹介疾患内容からも口腔外科専門医療機関としての役割を十分に果たしているといえる結果であった。今後さらに地域医療機関と病診連携を深め、口腔外科医療の向上に努める考えである。

引用文献

- 1) 服部 徹, 北島 正, 内藤講一: 市立島田市民病院における初診患者動態(抄). 日口外誌, 34(総会号):2944, 1998.
- 2) 服部 徹, 宇野克美, 北島 正, 内藤講一: 市立島田市民病院口腔外科における4年間の新患者動態(抄). 日口外誌, 39:508, 1993.
- 3) 三浦尚徳, 畔田 貢, 大類 晋, 江端正祐: 日鋼記念歯科口腔外科における最近5年間の外来患者の臨床統計的検討. 北海道歯誌, 16:142-148, 1995.
- 4) 富田 助, 島田紀夫, 岸本一夫: 国立栃木病院歯科口腔外科の最近3年6ヶ月の患者の臨床統計的観察(抄). 日口外誌, 30(総会号):2183, 1984.
- 5) 赤澤 登, 久我雅則, 横尾 聡, 高橋伸彰, 島田桂吉: 兵庫県立成人病センター口腔外科開設後2年間の患者の臨床統計的観察(抄). 日口外誌, 36:1981, 1990.
- 6) 新見照幸, 村田晴彦, 杉本修一: 当科における初診患者の臨床統計的観察(抄). 日口外誌, 37(総会号):2313, 1991.
- 7) 江口克己, 栃原義之, 松井俊明, 上田倫弘, 中嶋頼俊, 山下徹郎: 恵佑会札幌病院口腔外科開設以来7年間の外来患者の臨床統計的検討. 北海道歯誌, 18:42-48, 1997.
- 8) 北川栄二, 佐藤千晴, 村西京一郎, 深沢 亨, 林成憲: 医療法人社団北斗病院歯科口腔外科における紹介患者の検討. 道歯会誌, 55:103-106, 2000.
- 9) 黒岩裕一朗, 丹下和久: 春日井市民病院歯科口腔外科開設後1年5か月間における臨床統計的観察(抄). 日口外誌, 46:706, 2000.
- 10) 小出浩貴, 横林敏夫, 松田拓巳, 山田由紀: 長野赤十字病院口腔外科における紹介患者について(抄). 日口科誌, 43:1008, 1994.